

教育学部生による小学校・中学校の歴史学習における 長崎歴史文化博物館見学用ワークシートの作成の 2009年度の試みについて

堀井健一（長崎大学教育学部）

はじめに

去る2005年11月に長崎歴史文化博物館が開館して4年余りを経たが、この施設が小学校・中学校・高等学校における歴史学習において利用する価値の高いものであることは誰もが認めるところであろう。

筆者は、自身が勤務先で担当する歴史学研究の講義の中で受講生に対して長崎歴史文化博物館の見学を企画し、見学後に小学生または中学生向けの見学用ワークシートの作成を行なうように指導した。今年度の実質的な受講生数は18名（履修登録者数は19名）であり、そのほとんどが勤務先の学校教育教員養成課程の初等教育コースおよび中学校教育コース社会専攻の学生であるが、それ以外に1名の中学校教育コースの他の専攻の学生で中学校社会の教員免許取得希望者、1名の特別聴講生（大韓民国からの留学生）、1名の大学院在籍中の科目履修生が含まれる。本学部の教育コースの特性上、上記のとおり、受講生には小学生または中学生向けの見学用ワークシートを作成させることにした。学生による見学は2009年6月20日の午前中の約2時間半を当てたが、その中には初めに当該博物館研究員による講座室での博物館についての説明が含まれる。当日の見学学生数は14名であり、その後の作成ワークシートの提出者は17名（病気療養のためワークシート未提出1名）である。

小学生または中学生の歴史の学習において長崎歴史文化博物館を利用することは有意義であると思われる。さらに、その利用の際に学習用ワークシートがあれば、博物館内の多種多様な展示物を前にして効率的かつ効果的に歴史学習を行なうことができよう。今回の上記のようなワークシート作成課題の試みについてはすでに2005・2006・2007・2008年度に実施し、その内容については本誌の第5号の中の共著の拙稿（2005年度分）、第6号の中の拙稿（2006年度分）、第8号の中の拙稿（2008年度分）で報告を行なっている¹⁾。

本稿では、今年度の学生による小学校・中学校の歴史学習を想定した長崎歴史文化博物館見学用ワークシートの作成の試みについて、課題提出時に学生によって回答してもらったアンケートの結果を通して学生が当該の博物館の何に注目してどのようにワークシートを作成したかを分析するとともに、若干、提出されたワークシートの作成状況を分析したい。かかるアンケートの回収は16名分である。なお、現行の学習指導要領における博物館の利用の意義については拙稿を参照されたい²⁾。

本稿では、第1章の中で学生が長崎歴史文化博物館の展示物のうち何に注目した

かをアンケート結果の分析を通じて明らかにする。第2章の中では学生が児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物をアンケート結果の分析を通じて明らかにする。第3章の中では学生が設定した主題について考察する。第4章の中では学生が取り組んだ学習ワークシート作りにおいて更なる技術の伝授がうまく行なわれたか否かについて、若干、考察する。第5章の中では学生による作成ワークシートの内容について、若干、批評する。第6章の中ではアンケート結果に基づいて今回のワークシート作成の課題がいかにより学生の教育技術の向上に寄与したかを探るつもりである。そして、以上の試みを本稿の中で報告することによって、筆者が勤務先で行なっている教員養成のあり方について広くご意見を賜りたいと願っている。

第1章 学生が関心を持った博物館の展示物について

今回の学習ワークシート作成の課題では、過去の試みに引き続き、アンケート調査を行なった。アンケートの設問は、「(a) あなたが一番関心を持った展示物は何ですか?」、「(b) 児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物は何ですか?」、「(c) ワークシートを作成する時に一番工夫をしたところはどういうところですか?」、「(d) ワークシートの題名はどのような理由から付けましたか?」、「(e) ワークシート作成時に実習についての案内文に記載された論文を参照しましたか?」、「(f) 博物館の見学およびワークシート作成について感想を述べて下さい。」の5つである。前回のアンケート調査と異なる点は、「(e) ワークシート作成時に実習についての案内文に記載された論文を参照しましたか?」の設問に関して、学習ワークシートの作成の際に作成者である学生により良いワークシートを作成してもらうために参考となる論文、すなわち堀井健一、舛田安史、松本和寿「教育学部生による小学校・中学校の歴史学習における長崎歴史文化博物館見学用ワークシートの作成の試みについて」本誌第5号、2006年、103-115頁を、前年度よりも数多い受講生に参照してもらいたいと願ったことから、博物館見学前に事前に配布した案内文に上記の論文を掲載したホームページのURLを記載して受講生がその論文を閲覧しやすいように工夫したことである。

本章では上記の「(a) あなたが一番関心を持った展示物は何ですか?」の設問に対するアンケート回答から、ワークシート作成者である学生が関心を持った長崎歴史文化博物館の展示物を分析することを試みる。下記に学生が一番関心を持った展示物としてアンケート用紙に記載したものを列挙する。ただし1人が複数回答している場合がある。なお、列挙の仕方は、博物館の2つのゾーンの各コーナー別とし、各コーナーの区分けは博物館のリーフレットの中に記載の分類に従った。

〔歴史文化展示ゾーン〕

〈歴史文化展示ゾーン全般〉

貿易の資料や交流の資料などで鎖国のなかで長崎の外国との貿易がとても盛んだったことがわかった（1名）

〈大航海時代〉
 南蛮屏風（2名）
 〈長崎貿易〉
 長崎貿易（1名）
 当時の輸入品が現代ではどのくらいの価値か知ることができる所（1名）
 輸出入品（2名）
 「貿易品の国内流通」の長崎～江戸砂糖の旅（1名）
 〈朝鮮との交流〉
 朝鮮との関係（1名）
 〈中国との交流〉
 中国との交流（1名）
 鄭成功が平戸で生まれたという史料（1名）
 〈オランダとの交流〉
 オランダとの交流（1名）
 蘭館図絵巻（1名）
 解体新書（1名）

[長崎奉行所ゾーン]
 〈長崎奉行所立山役所〉
 長崎奉行所（1名）
 〈「犯科帳」の世界〉
 犯科帳をもとにしたアニメーション（1名）
 「犯科帳」の世界（1名）
 〈キリシタン関連資料〉
 キリシタン関連資料（1名）
 〈お白州〉
 お白州での寸劇（1名）

学生が一番関心を持った展示物は以上のとおりである。次に、以上のような、学生が一番関心を持った展示物としてアンケート用紙に記載したものを列挙したものを数値化してコーナー別に整理して表にすると下記のとおりになる。

表1 学生が一番関心を持った展示物

歴史文化展示ゾーン	
歴史文化展示ゾーン全般	1
大航海時代	2
長崎貿易	5

朝鮮との交流	1
中国との交流	2
オランダとの交流	3
長崎奉行所ゾーン	
長崎奉行所立山役所	1
「犯科帳」の世界	2
キリシタン関連資料	1
お白州	1

アンケートの回答では1人が複数回答している場合があるので、学生が一番関心を持った展示物の多寡を単純に述べることはできないが、本稿では、前回に引き続き、あえて分析を試みる。学生が一番関心を持った展示物の中では「長崎貿易」コーナーのものを挙げた件数が5件で一番多く、次に「オランダとの交流」コーナーのものを挙げた件数が3件で二番目に多いことが分かる。内容を見てみると、「長崎貿易」コーナーの場合はその輸出入品、長崎商人のように貿易品の値段を推測するコーナーに関心を持った事例、砂糖の国内移動の説明があり、他に展示物そのものではないが長崎貿易の盛んなさまに注目した事例（「歴史文化展示ゾーン全般」に分類）がある。また、「オランダとの交流」コーナーの場合はその交流、蘭館図絵巻、解体新書に関心が分散している。それら2つのコーナーを包括して言えることは、学生たちがやはり貿易都市長崎に関心を持っていることである。この結果には、学生たちにはやはり出島の存在が長崎の歴史のシンボルとして映っていることや彼らが国際理解とその教育に関心があることが背景にあると考えられる。他方、今回のアンケート調査では、歴史文化展示ゾーンと比べれば、長崎奉行所関係の展示物にあまり関心が集まらなかったと言える。

第2章 学生が児童または生徒に伝えたい博物館の展示物について

本章では上記の「(b) 児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物は何ですか？」の設問に対するアンケート回答から学生が関心を持った長崎歴史文化博物館の展示物を考察したい。下記に、学生が一番関心を持った展示物としてアンケート用紙に記載したものを列挙する。

〔歴史文化展示ゾーン〕

〈歴史文化展示ゾーン全般〉

鎖国とは幕府が通商・外交・外国情報を独占するということとその中で日本に影響を与えた外国人がいたこと（1名）

長崎は鎖国においても異文化交流を行っていて独自の暮らしを営んでいたことを感じさせる外国との交流の資料（1名）

- ゾーン全体（1名）
 - 〈大航海時代〉
- 南蛮図屏風（1名）
 - 〈長崎貿易〉
- 長崎貿易（1人）
- 輸出入品（2名）
 - 〈朝鮮との交流〉
- 倭館に関する展示物（1名）
 - 〈中国との交流〉
- 中国との交流（1名）
 - 〈工芸展示〉
- 長崎の工芸品（長崎の特産品には海外の影響が大きく残っていること）（1名）
 - 〈オランダとの交流〉
- オランダの日本コレクション（1名）
- オランダとの交流（1名）
- 蘭館図絵巻（1名）
 - 〈長崎遊学〉
- 長崎遊学（1名）
 - 〈日本の近代化と長崎〉
- 日本の近代化と長崎（2名）

- 〔長崎奉行所ゾーン〕
 - 〈長崎奉行所ゾーン全般〉
- 長崎奉行所ゾーン（1人）
 - 〈長崎奉行所立山役所〉
- 長崎奉行所立山役所（1名）
 - 〈キリシタン関連資料〉
- キリスト教に関する展示物（1名）

学生が児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物としてアンケート用紙に記載したものは以上のとおりである。次に、以上のような、学生が児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物としてアンケート用紙に記載したものを数値化してコーナー別に整理して表にすると下記のとおりになる。

表2 学生が児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物

歴史文化展示ゾーン	
歴史文化展示ゾーン全般	3

大航海時代	1
長崎貿易	3
朝鮮との交流	1
中国との交流	1
工芸展示	1
オランダとの交流	3
長崎遊学	1
日本の近代化と長崎	2
長崎奉行所ゾーン	
長崎奉行所ゾーン全般	1
長崎奉行所立山役所	1
キリシタン関連資料	1

アンケート回答では1人が複数回答している場合があるので、学生が児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物の多寡を単純に述べることはできないが、本稿では、あえて考察を試みる。学生が児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物の中で一番多く挙げられたものは、「長崎貿易」コーナーと「オランダとの交流」コーナーの3件が「歴史文化展示ゾーン全般」の3件と肩を並べている。学生が「児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物」は、前章の中の学生が「一番関心を持った展示物」とは異なって、小学校または中学校の歴史の授業と深く関わる事柄であることが予想されるのであるが、今回のアンケート回答の結果ではいずれにも「長崎貿易」コーナーと「オランダとの交流」コーナーの優越性が見られる。それゆえ、アンケート回答者の学生たちは今回、鎖国中の長崎・出島の交易、特にオランダとの交流を主として意識したと思われる。学生が児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物の回答状況の中で、前章の学生が一番関心を持った展示物の回答状況と一番異なっていると思われるのは、「日本の近代化と長崎」コーナーの2件であろう。これは、最近、我が国で近代化遺産に注目が集まってきたことと関係があるかもしれない。ただし、今回の回答結果では学生が「児童または生徒に一番伝えたいと思った展示物」の件数にばらつきがあり、明らかに優位なものがあったとは言い難いので、これ以上の考察は控えた方が賢明であろう。

第3章 学生が設定した主題について

本章の中では学生が実際に考えて設定した、ワークシートの主題を考察したい。以下にそれを列挙する。

(1) 初等教育コースの学生

どんな貿易が長崎で行われていたのだろうか？

もっと知ろう！ 長崎の歴史や文化
長崎奉行所の歴史を探ろう
長崎貿易について学ぼう！！
長崎の中の中国について知ろう！
長崎にゆかりのある人物について調べよう

(2) 中学校教育コースの学生

長崎とオランダ交流
長崎歴史文化博物館で長崎学をしよう！
長崎奉行所ってどんなところ？
海外交流と長崎
長崎から鎖国を学ぶ
鎖国のなかの長崎
長崎歴史文化博物館に学ぼう！
鎖国と長崎
鎖国の実態を知ろう

(3) その他の学生

長崎を歴史の流れから見る
朝鮮との交流もあったよー！！

上記の主題の一覧表を概観して気づくことであるが、江戸時代の長崎の海外との貿易や交流を主題としたものが目立つようである。だが、コース別に見ると、中学校教育コースの学生では「鎖国」に焦点を当てた主題が目立つのに対して、初等教育コースの学生ではそれに比して主題が様々であることに気付く。推測するに、中学校教育コースの学生は今回のワークシート作成を中学校社会科歴史分野の授業の一環として捉えるものが多かったと、それに対して初等教育コースの学生は、総合学習の時間を念頭に置いて、郷土長崎を主題として選んだ者が多かったのではなかろうか。ワークシートの主題に関してはその作成者が自身の問題関心に沿ってそれを決定した傾向があると言えよう。

第4章 ワークシート作成の更なる技術の伝授に関連することについて

今回の学習ワークシートの作成の課題においては、過年度と同様、前もってその作成の更なる技術を伝授するためにある論文を参照するように指導した。本章の中ではその指導がうまく生かされたか、そしてどのような効果を生じたかについて検証したい。

その論文とは、筆者がかつて附属小・中学校の教員たちと共同で執筆したものであり、今回の課題と同じようなものを初めて試みた際に提出された受講生の諸成果

を吟味して良かった点や至らなかった点を共同して指摘したものを論文の形にまとめたものである³⁾。

課題提出時に受講生に提出させたアンケートの中で「ワークシート作成時に実習についての案内文に記載された論文を参照しましたか？」という設問およびそれに「はい」または「いいえ」で回答する記載項目と、「参照した場合、役に立った点を下記に記して下さい。」という付属の指示事項を記載しておいた。

昨年度までの受講生による課題作成時と異なる点は、前述のとおり、当該の論文を一人でも多くの受講生に参照してもらうことを狙って、参照論文を筆者の勤務先の学部のサーバー上に掲載してその掲載ページの URL を受講生に配布した案内文に記載して周知する試みを行ったことである。

アンケートの回答の結果は次のようなものになった。論文を参照したか否かを問うた「はい」と「いいえ」の二者択一の設問の回答結果は、「はい」と回答した者が9名（前年度は6名）、「いいえ」と回答した者が7名（前年度は15名）であった。大学教育では講義担当教員が参照を指示した論文を受講生が図書館に足を運んで閲覧することが望まれるが、昨年度まではこの点に関して良い結果が得られなかった。他方、今年度は、論文の参照者の人数が非参照者のそれを上回った。この結果に関しては、ある意味では講義担当者の筆者の工夫が功を奏したと言えようが、やはり情報ネットワークの利便性が効力を発揮したと言えるであろう。

次に、「参照した場合、役に立った点を下記に記して下さい。」という付属の指示事項に対する回答の結果を紹介したい。この設問に回答を寄こしたのは当該論文を参照して「はい」と回答した9名全員であった。下記にその回答を列挙する（複数回答がある）。

- ・ワークシートでの問いかけのしかた。
- ・第4章の「学生による作成ワークシートの内容についての批評」がワークシートを作る際にとっても役に立ちました。どのようなワークシートを作成しなければならないのかについて、理解できたと思います。クイズ形式や一問一答にならないよう、子どもに多く記述させ、考えさせるものを作りました。
- ・一問一答にならないようなワークシート作り。
- ・一問一答だけでなく、記述式の欄を設けたこと。
- ・子どもの視線からみて、分かりやすいワークシート作り。
- ・どのような視点を持つと良いのか書かれていた点。
- ・博物館で調べることと博物館で体感する、気づく、考えることの2つの要素がワークシートにあるとよい。
- ・感想を書かせる箇所で「見学してどうでした？」と発問するのではなく、「どんな感想を持ちましたか？」と具体的に書く。
- ・訪問日や氏名などの記入欄を設ける。児童・生徒の学習の動きを具体的に書いてワークシートを作成する。

- ・調べた後の要点整理の場を設ける。
- ・どのように工夫した方がよいかなどについて書かれていたのでその点に注意しながら作ることができた。
- ・（写真画像で掲載の）2つのワークシートを見ることができたので、どのように作成するのか参考にすることができてよかった。
- ・（先輩の作品の）写真を掲載したこと。
- ・論文の最後に、学生が作成したワークシートの例が紹介されていた点。
- ・先輩たちがどのような分野をワークシートにしたのか（参考になった）。
- ・（写真画像で掲載の）ワークシートの作成例などがあったのでイメージをつかみやすかったです。
- ・ワークシート作りのヒントのところです。いろいろなアドバイスがあり参考にさせてもらいました（111～113ページあたり）。
- ・どのような形式でワークシートにまとめたらよいのか（参考になった）。
- ・指導要領と博物館の関連性について（参考になった）。
- ・ワークシートの内容についての批評や気づきが述べられていた点。

アンケートの回答を見る限り、例えば、子どもの視線でワークシートを作成する姿勢、単調な一問一答式に陥らないよう自由記述欄を設ける技術、見学日の記述欄を設けるなどのワークシート作成時の初歩的な技術、子どもに体感させたり考えさせる工夫の必要性などを受講生が論文を通して学び、それをワークシート作りに生かしたことが分かる。

それゆえ、博物館を利用するためのワークシート作成の更なる技術を伝授するためにも、筆者は上記のような論文の参照を今後も講義の中で指導していきたいと思う。

第5章 学生による作成ワークシートの内容についての若干の批評

今回の学習ワークシートの作成の課題は、前年度と同様にワークシートの分量としてA4判3～4枚程度とすることを学生に指示した。作成したワークシートの提出締切日は、博物館見学後の38日後であった。

前述の論文を参照しない受講生がいたため、いまだに、提出されたワークシートの中には児童・生徒の氏名や博物館訪問日の記入欄がないものが散見され、初歩的な決まりごとに思いが至らなかった受講生がいたことが分かる。また、昨年度の作品と比べて、若干、工夫が見られない駄作が目についた。これについては受講生の意欲や学力の問題が背景にあると思われる。さらに、博物館訪問時に館員から館員が作成した小学生対象の見学シートの案内があったので、それに一部分似せたと思われる作品が若干存在した。指導する立場にある筆者としてはそのことを残念に思った。

他方、今回の受講生の長崎歴史文化博物館への訪問時には受講生が持参したデジ

タルカメラによる撮影が館員によって許可されたので、その撮影画像が活かされた作品が多く見受けられた。デジタルカメラも最近は安価で小型になっており、見学时に持参する受講生が多かったことがその背景にあったであろう。

なお、本稿の末尾にワークシートの作成の諸例を写真（図1）で示しておく。

第6章 受講生が認識したワークシート作成課題の効果

本章の中では今回のワークシート作成の課題がいかに学生の教育技術の向上に寄与したかをアンケート結果に基づいて探る。

以下にアンケートの設問の中の「(e)博物館の見学およびワークシート作成について感想を述べて下さい。」に対して得られた回答の中から、ワークシート作成の課題が学生の教育技術の向上に寄与したことを直接示唆してくれると考えられる記述を拾い上げて一覧にする。

- ・生徒にどこを考えさせよう、ここは調べさせようなどと考えながら作成したが、どのように作っていいのか分からずにとっても難しかった。しかし、どの授業でもこのようなワークシート作成については学んだことがなかったので、今回自分なりに考えながら作ることでとても勉強になったのでよかった。
- ・ワークシートを作るにあたっては、子どもたちの立場に立って考えさせられる機会がたくさんあって、とても役に立ったと思う。今回のことを今後にも活用していきたいと思う。
- ・博物館の見学はとてもためになった。大学生である自分がいっても楽しめたり、勉強できる作りだったので、自分が教師になった際にはぜひとも活用したいと思った。ワークシート作りに関しては、もう少し画像を入れたかったので、その辺を考えつつ、博物館を見学すればよかったと思った。とても勉強になりました。
- ・初めて見学したが、今まで教科書で学んだ長崎と比べて長崎がとても栄えていたということがわかった。長崎に来て、平和というイメージが強かったが、長崎の歴史的価値の高さを改めて感じた。またとても良い経験になった。
- ・初めて博物館を訪れて、長崎出身の自分でも知らなかったことがたくさんあり、また教科書では学べないことも多く、とても勉強になりました。ワークシート作成については、長崎に関するものを整理して、将来教員になったときに役立てられるようにしたいと思います。
- ・〔博物館見学が有意義であったことの指摘の後、引用者注〕ワークシート作成は、実際の授業を想定して書いたので楽しかったです。今回は子供たちが博物館へ、行く前と後の2つに分けて作成しました。子どもがまず予想を立てて、それから実際はどうなるのかと考え、調べる。このことを想定して作成しました。どちらも〔博物館見学とワークシート作成のこと、引用者注〕大変勉強になりました。ありがとうございます。

以上のとおり、16人分のアンケート結果のうち6人分の回答から、今回のワークシート作成の課題が学生の教育技術の向上に寄与したことを示唆してくれると考えられるものが得られた。受講生は、それなりに児童・生徒のために彼らの目線を意識して教材プリントを作成してくれたと思われる。それゆえに今回のワークシート作成の課題は学生にとっては教材研究のよい機会となったと思われる。

また、受講生の中には、今回のワークシート作りの課題の機会によって長崎歴史文化博物館を見学する機会を得て長崎の歴史自体の特徴を再認識する者がいたことは興味深い。他方で、今回の課題についての感想の自由記述欄の中で、ワークシート作成の課題が難しかったと記述する受講生が以前よりも目立った。この点は受講生の意欲と学力の問題が背景にあるかもしれない。なぜならば、今回の課題のおかげで長崎歴史文化博物館に初めて来ましたと記述する学生が目立つので、彼らは普段は大学での学習で手一杯であったのではないかと思わせるからである。学生には普段から歴史的名所や遺跡などに意欲的に足を運んでもらいたいと筆者は思っているので、その点からすると、今年度の受講生は少し意欲に欠ける存在であると言えるかもしれない。

おわりに

今回のワークシート作成の課題に際して回答を得たアンケートの結果において、このワークシート作成の試みが学生にとっては、長崎歴史文化博物館の展示物に改めて注目する機会になったし、それなりに子どもたちの目線を意識した教材作りの練習の機会になったので有意義であったと思われる。

また、去る2008年3月28日に改訂された新しい中学校社会科の学習指導要領においても、前のものと同様、歴史学習において「博物館、郷土資料館などの施設を見学・調査」することを促している⁴⁾。それゆえ、これからも博物館側の更なる取り組みが期待されるだけでなく⁵⁾、他方で、学校現場における博物館の利用が促進されるべきであろう。かかる状況において、筆者は、本稿の中で紹介した、中学校社会科の教員養成課程における長崎歴史文化博物館を利用した学習ワークシート作りの実践活動を今後も学生に指導し続けていきたいと思っている。

ただ、新しい中学校社会科の学習指導要領においては改訂の要点として「言語活動の充実」や「社会参画、様々な伝統や文化、宗教に関する学習などを重視」することが新たに盛り込まれたので⁶⁾、長崎歴史文化博物館を利用した学習ワークシート作りの実践活動においてこれらの点に配慮した指導が模索される必要がある。この点については今後の課題としたい。

註

- 1) 堀井健一、舛田安史、松本和寿「教育学部生による小学校・中学校の歴史学習における長崎歴史文化博物館見学用ワークシートの作成の試みについて」『教育実践総合センター紀要（長崎大学教育学部附属教育実践総合センター）』第5

号，2006年，103-115頁；堀井健一「教育学部生による小学校・中学校の歴史学習における長崎歴史文化博物館見学用ワークシートの作成の2006年度の試みについて」『教育実践総合センター紀要（長崎大学教育学部附属教育実践総合センター）』第6号，2007年，69-78頁；堀井健一「教育学部生による小学校・中学校における長崎歴史文化博物館見学用ワークシートの作成の2008年度の試みについて」『教育実践総合センター紀要（長崎大学教育学部附属教育実践総合センター）』8号，2009年，83-93頁。なお，2007年度の試みについては諸般の事情により論文にまとめていない。

- 2) 堀井他，前掲誌，5号，104-105頁。
- 3) 堀井他，前掲誌，5号，103-115頁。
- 4) 文部科学省『中学校学習指導要領解説社会編』（日本文教出版，2008年）144頁。
- 5) 筆者は，2009年2月21日に長崎歴史文化博物館において開催された「長崎歴史文化博物館博学連携協働事業 協力校・パートナーズプログラム平成20年度活動報告会」に当博物館から誘いを受けて出席したが，当博物館においても博物館と学校現場の更なる連携を昨年度から推進し始めており，筆者がそれまで行ってきた博物館を利用した学習ワークシート作りについて博物館員たちが大変興味を示してくれている様子であった。
- 6) 文部科学省，前掲書，6-8，11-14頁。Cf. 岩田一彦，米田豊編著『中学校社会科「新教材」授業設計プラン—新旧比較で授業はこう変わる—』（明治図書，2009年）18-22頁。

図1 ワークシートの例

